

説明文・論文を読む

今回の学習のポイント

- ① 説明文と論説文のちがいについて
- ② 説明文と論説文の読み取りについて
- ③ 文章構成について

はじめに

説明文、論説文という言葉を知ると、何やら難しそうな感じを受けてしまいます。しかし、冷静になって身のまわりの文章を読んでみると、説明文や論説文は身のまわりに多くあることがわかります。まずは、二つの文の違いから確認してみましよう。

説明文と論説文のちがいについて

説明文とは、「その文章を書く人が、知識や情報等の内容を、読者や聞き手に要点を整理して、よくわかるように説明する（説き明かす）文章」です。日常生活においても家電製品やゲームの「マニュアル」、薬品などの「使用上の注意」など私たちの身のまわりにあります。

説明文が知識や情報をわかりやすく伝えることに主眼を置いていることに対して、論説文は、「文章の書き手が考えていることや強調したいことを、論理的に筋道を立てて述べた文章」です。つまり、論説文とは読み手を納得させたり、説得させたりする文章、となります。日常生活で目にする論説文の代表的なものは、新聞の社説や映画、本の文芸時評などがこれにあたります。

説明文と論説文の読み取りについて

説明文は、ある出来事や情報をよく知っている人間が、それらをよく知らない人たちに説明をしようとして書いた文章です。ですから、説明文を読み取るということは、その作者が何について、どのように、説明している文章かを把握することが大切です。論説文も同じです。筆者が主張したいことは何かを読み取るのが中心です。何について書かれているかを把握する方法はいくつかありますが、代表的なものをいくつか紹介したいと思います。

皆さんも大事なことを誰かに伝えようとしたとき、一度言っただけで「大丈夫、伝わった。」とは考えないと思います。文章も同じです。伝えたいこと理解してほしいことは、何回も繰り返されます。ですから、文章の中に繰り返し出てくる

国語監修・執筆

鈴木 周太

言葉がその文章のキーワードや要点となります。キーワードがわかると、その文章が何について書かれているか理解する助けになります。

文末にも注意しましょう。単なる「〜いる」や「である」という文末に加えて、「〜のである」といった判断・評価がわかる表現や「〜ようだ」「〜ようです」「〜だろうか」「〜でしょうか」という対話的な表現を用いて主張したい内容を示すこともあります。

これらのことに気を付けて文章を読んでみてください。

文章構成について

説明文や論説文では、論証のしかたに特色があります。いくつか分類を見てみましょう。

■文章構成の型

①三段型

序論……話題やテーマを書き、何について書くかを示す。

本論……中心となる内容を、詳しく書く。

結論……本論で述べた内容をまとめたり、感想を述べたりする。

能楽などの用語から、右記の「序論・本論・結論」を「序・破・急」と言ったりもします。

②四段型 三段型の本論を二つに分けた型

序論……話題やテーマを書き、何について書くかを示す。

説明……テーマや話題を詳しく書く。

論証……説明の部分を別の観点から述べる。

結論……本論で述べた内容をまとめたり、感想を述べたりする。

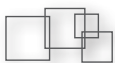
漢詩の四行詩の構成法から、上記の「序論・説明・論証・結論」を「起・承・転・結」と言ったりもします。

■主題の位置による区分

①頭括式……文章の初めに主題を述べ、その後、主題の説明や論証を行う型。

②尾括式……説明や論証を挙げた後、主題（結論）を最後に述べる型。

③双括式……頭括式と尾括式を組み合わせた型。主題、説明などが並び、最後にもう一度主題を述べてまとめる型。



まとめ

説明文と論説文を見てきました。はじめに、でも述べましたが、「説明文」「論説文」と聞くと身構えてしまう人も多いと思います。しかし、家電の取り扱い説明書であったり、ゲームの攻略本であったり、新聞や映画の論評だったり、注意して身のまわりにある文章を眺めてみると、説明文や論説文が私たちの身のまわりに数多くあることがわかります。どちらの文にしても、書き手は読者である皆さんに何かを伝えたいと思って書いています。この学習メモもそうです。何についてどのように書かれているかを読み取って皆さんの世界をぜひ広げてほしいと思います。